

高淑娟
著

中国人日本語学習者による
疑問文イントネーションに関する
音響音声学的研究

中国日语学习者 疑问句语调实验研究

 吉林大学出版社

中国人日本語学習者による
疑問文イントネーションに関する
音響音声学的研究

中国日语学习者 疑问句语调实验研究

高淑娟 著

 吉林大学出版社

· 长春 ·

图书在版编目 (CIP) 数据

中国日语学习者疑问句语调实验研究 / 高淑娟著. —
长春: 吉林大学出版社, 2020.1
ISBN 978-7-5692-5603-1

I. ①中… II. ①高… III. ①日语-疑问(语法)-研究 IV. ①H364.3

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2019) 第 206565 号

书 名 中国日语学习者疑问句语调实验研究
ZHONGGUO RIYU XUEXIZHE YIWENJU YUDIAO SHIYAN YANJIU

作 者 高淑娟 著
策划编辑 李承章
责任编辑 安 斌
责任校对 赵 莹
装帧设计 云思博雅

出版发行 吉林大学出版社
社 址 长春市人民大街 4059 号
邮政编码 130021
发行电话 0431-89580028/29/21
网 址 <http://www.jlup.com.cn>
电子邮箱 jdcbs@jlu.edu.cn
印 刷 长沙市宏发印刷有限公司
开 本 880 mm × 1230 mm 1/32
印 张 6.5
字 数 160 千字
版 次 2020 年 1 月第 1 版
印 次 2020 年 1 月第 1 次
书 号 ISBN 978-7-5692-5603-1
定 价 58.00 元

版权所有 翻印必究



高淑娟

广东外语外贸大学日语语言文学专业博士，现为桂林电子科技大学讲师。研究方向日语语音学。在各级刊物上发表学术论文十余篇，主持与参与科研项目十余项。

摘 要

语调是语音研究中的重要课题。对中国日语学习者来说日语语调的习得相对比较困难，而目前国内外的研究多集中在对日语疑问句语调的种类、功能以及对语句内部音高曲拱的描述上，尚未发现全面研究含疑问、反问、确认、怀疑语气的日语疑问句语调的成果。本书使用语音学的声学分析手段，运用对比分析法和统计学的研究方法，首先从音高曲线图、调域、时长等音高层面的角度观察中国学习者在习得“疑问”“反问”“确认”“怀疑”四种语气的日语疑问句语调时出现的偏误现象，归纳其语调特征，探讨中国学习者与日语母语话者之间存在的差异。其次在第二语言习得理论的基础上探寻汉语的韵律特征对学习者的日语疑问句习得造成的影响，分析偏误产生的原因，并根据研究结果对中国的语音教学提出建议。

本书共分为7章。其中主体部分为4章。以下为各章得出的主要观点和分析结果。

通过对日语疑问句的全句、句首、句尾语调的音域及时长的分析，发现日本母语话者疑问句「これいる？」和「これみる？」在全句和句末的音域及时长上的方差数据存在显著差异，但句首语调的音域和时长并未发现差异。而对中国日语学习者在全句、句首、句尾的音域与时长上均未检测出差异，可见全句和句尾的音域和时长是日本人母语话者区分日语疑问句语调的主要因素，而对中国学习者辨别语调无效。

对日本人母语话者与中国学习者同一语调分别进行对比分析, 实施 t 检验后发现全句、句尾音域、句尾时长上两句疑问句均有差异, 尤其疑问和怀疑两种语气的语调上母语话者与学习者之间的差异最为显著, 而全句时长无显著差异。因此, 可以推断出全句和句尾的音域和句尾的时长可以用于区分母语话者与学习者的同一语调。

对中国母语话者汉语疑问句语调进行分析后得出的结论: 疑问句「这个你要?」的全句、句首、句尾音域上四种语调之间的差异很小, 「这个你买?」的疑问与确认语气的语调之间差异显著。句首音域上两句均未检测出显著差异。时长方面, 四种语调之间差异较小。全句、句尾的音域和时长可以区分疑问与确认、反问与确认、确认与怀疑。全句时长可以区分疑问和确认、反问和确认, 确认和怀疑, 但句尾时长仅能区分疑问和反问, 反问和确认。因此, 辨别汉语疑问句语调时句尾音域和全句时长可以优先考虑。

通过对汉语的韵律特征分析, 首先, 发现中国学习者在习得日语疑问句时出现的全句和句尾的音域较日本母语话者窄, 句尾上升幅度小以及四种语调之间音域和时长的数值差异偏小等问题。其次, 学习者在习得日语疑问句语调过程中, 采用和辨别汉语疑问句语调相同的声学相关物进行语调的区分。最后, 探究出现以上现象的原因, 可以推断出这是由中国人日语学习者受母语的影响, 进行类推所产生的偏误现象, 其根源在于缺乏专业的语音语调指导, 没有针对性和实用性强的教材以及良好的学习语境。

母语的迁移对第二语言习得的影响很大。从本书的结论可以看出中国日语学习者习得日语疑问句语调时, 母语的迁移非常显著。

要 旨

イントネーションは音声研究における重要な課題である。中国人学習者にとって、日本語イントネーションの習得は難しい。これまで、日本語イントネーションに関する国内外の研究は主に疑問文イントネーションの種類、機能及びピッチ曲線の記述が主で、疑問、反問、確認、疑いというモダリティを表す疑問文イントネーションについての研究は見当たらない。本書は、実験音声学的手段を使い、対照分析法という統計学的な研究方法を用い、「質問」、「反問」、「確認」、「疑い」という意味を表す四つの疑問文イントネーションを課題に、中国人学習者の日本語疑問文のイントネーションの特徴を観察し、学習者が母語話者とどのような相違点があるかとその原因について、究明するために、ピッチ曲線、音域、持続時間などの音声学的要素から詳細な分析を行った。また、第二言語習得の理論に基づいて、中国人日本語学習者による中国語疑問文イントネーションの特徴を解明した上で、母方言の韻律的特徴、疑問文イントネーションの特性が日本語疑問文イントネーションの習得に影響を与えるかどうかを考察した。さらに、問題がある場合その原因についても考察を試みた。最後に、今後の音声教育をどう改善すればいいかについて、自分の意見を述べた。

本書は七つの章から構成され、各章から次のような実験結果が得られた。

1. 日本人母語話者による疑問文「これいる？」と「これみる？」では、全文、文末の音域と持続時間には f 検定で顕著な有意差が検出されたが、文頭の音域と持続時間は有意差が見られなかった。一方、中国人学習者の場合、全文、文頭、文末の音域と持続時間においては、四つのイントネーションの間には差があるが、 f 検定の結果では有意差が検出されなかった。この結果から、全文、文末の音域と全文と文末の持続時間は日本人母語話者にとって、四つのイントネーションの区別に有効な音響的特性であるが、中国人学習者にとって有効であることが認められない。

2. 日本人母語話者と学習者によるイントネーションに対して、同一文におけるイントネーションに対して t 検定を行った結果、全文、文末の音域、文末の持続時間には「これいる？」も「これみる？」も有意差が観察されたが、全文の持続時間には有意差が検出されなかった。質問と疑いのイントネーションにおいては、母語話者と学習者との有意差が顕著であることも発見した。換言すれば、全文の音域、文末の音域、と文末の持続時間は学習者と母語話者による質問、疑いの弁別に優先的に関与する音響的要因であったが、全文の持続時間は母語話者と学習者のイントネーションを区別するのに有効な音響的特性ではない。

3. 中国人母語話者による中国語疑問文イントネーションについては、疑問文「这个你要？」では、全文、文頭、文末の音域は四つのイントネーションの間の差が小さい。「这个你买？」においては、全文と文末の音域は確認と疑いとの差が大きい。文頭の音域では、「这个你要？」も「这个你买？」も顕著な有意差が検出されなかった。持続時間では、四つのイントネーションの間には差が小さい。 f 検定の結果から、「这个你买？」では、文末の持続時間、音域と全文

の持続時間がそのイントネーションの区別において、有効に関与することが示唆された。「这个你要？」の場合、全文と文末の音域、全文、文末の持続時間はイントネーションを弁別する際に用いる音響的特性であるが、文末の音域と全文の持続時間は優先的に考える要因となることが分かった。

4. 学習者の母語である中国語の韻律特徴への考察を通して、中国人学習者における全文と文末の音域は母語話者より狭く、文末上昇ぶりは母語話者ほど激しくなく、四つのイントネーションの音域と持続時間の差が小さいことを発見した。また、学習者が日本語疑問文イントネーションを習得する過程において、同様に中国語疑問文イントネーションの弁別手がかりを用いてイントネーションを区別する。これは母語の影響を受け、学習者が類推して犯したエラーである。その原因を探ると、専門的な音声指導、有効な教材及び日本語の学習環境の不足に関わることが解明された。

母語の転移は第二言語習得に大きく影響を及ぼしている。本研究では、中国人学習者の疑問文イントネーションの習得において、母語の転移が極めて顕著である。

装帧设计 云思博雅

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

目 录

第1章 序論	001
1.1 本研究の背景	002
1.1.1 中国における日本語教育の現状	002
1.1.2 日本語音声教育の現状	005
1.2 本書の研究内容と研究対象	010
1.3 本書の研究方法	012
1.4 本書の研究目的	013
1.5 本書の研究意義	014
1.6 本書の構成	015
第2章 研究背景	018
2.1 用語と基礎的概念の定義	018
2.1.1 アクセント	018
2.1.2 声調	020
2.1.3 イントネーション	022
2.2 中国語のイントネーション	029
2.2.1 中国語のイントネーションの定義	030
2.2.2 中国語のイントネーションの種類	031
2.2.3 中国語の疑問文イントネーションの特徴	031
2.2.4 中国語声調とイントネーション	033
2.3 まとめ	035

第3章 先行研究の概観	036
3.1 第二言語習得研究	036
3.2 日本語文末イントネーションに関する研究	039
3.3 学習者によるイントネーションに関する研究	040
3.4 日本語疑問文イントネーションに関する研究	042
3.4.1 日本語疑問文イントネーションの種類に関する研究	042
3.4.2 学習者による日本語疑問文イントネーションに関する研究	046
3.5 中国語疑問文イントネーションに関する研究	049
3.5.1 中国語イントネーションの理論枠組み	049
3.5.2 中国語疑問文イントネーションに関する研究	052
第4章 音声実験	061
4.1 音声の収録	061
4.1.1 前提	061
4.1.2 目的	061
4.1.3 音響実験方法	062
4.2 音響的分析	065
4.2.1 録音の手順	065
4.2.2 録音環境と録音機材	065
4.2.3 音声資料の作成	065
4.2.4 分析方法	066
第5章 音声分析	068
5.1 述語アクセントが無核語の場合	069
5.1.1 質問を表す「これ、いる？」におけるイントネーション	069

5.1.2 反問を表す「これ、いる？」のイントネーション	073
5.1.3 確認を表す「これ、いる？」のイントネーション	077
5.1.4 疑いを表す「これ、いる？」のイントネーション	080
5.2 述語アクセントが有核語の場合	091
5.2.1 質問を表す「これ、見る？」のイントネーション	091
5.2.2 反問を表す「これ、見る？」のイントネーション	095
5.2.3 確認を表す「これ、見る？」のイントネーション	098
5.2.4 疑いを表す「これ、見る？」のイントネーション	101
5.3 中国人学習者の問題	116
第6章 中国人学習者による中国語疑問文のイントネーション	119
6.1 母方言との関連	119
6.1.1 対照言語分析期	121
6.1.2 誤用分析	123
6.1.3 中間言語	125
6.2 中国語イントネーションの特徴	129
6.2.1 中国語イントネーションの二重性	129
6.2.2 中国語イントネーションの多次元性	130
6.2.3 中国語イントネーションの連続性	132
6.3 中国語の音声特徴	133

6.4 中国人の生成した疑問文の実験分析	137
6.5 まとめ	147
第7章 結論と今後の展望	150
7.1 考察と結論	150
7.1.1 考察	150
7.1.2 結論	155
7.2 日本語音声学習の難点と教育	161
7.2.1 日本語音声学習の難点	162
7.2.2 音声教育指導法と音声教材	163
7.2.3 日本語音声教育と学習への提言	166
7.3 今後の課題と展望	169
参考文献	172

第1章 序論

近年、中国では、日本語が英語に次いでよく使われている外国語となり、急速に世界中に普及するとともに、各大学は日本語科を次々と設置した故に、国内での日本語学習者の人数は大幅に増加した。一方、日本語教育の現場において、従来、日本語学の研究に従事している教師は、学生の聞く、話す、読む、書くという四つの能力を育てることを主な学習目標として、文法、語彙などの分野に重点をおいて、日本語の音声教育を軽く取り扱う傾向が強かった。学習者は発音の段階では、教科書や日本語教師の発音を聞いて、真似することが中心で、アクセント、イントネーション、プロミネンス、ポーズといった韻律に関する音声指導を受けていない。結果として学習者が身につける日本語の発音は、中国語訛りの日本語となってしまった。そのようなイントネーションの違いが、日本語によるコミュニケーション上の不便や誤解を生む事例が多い。したがって、今後、プロソディー教育に力を入れるべきであろう。

イントネーションは言語の韻律・プロソディーの一要素（井上、1997）。文の意味に関与し、聞き手に、話し手の発話意図や感情を伝達する重要な手段である。日本語で発話する際には、文法、語彙などが正しくても、イントネーションの誤用によって、相手に誤解を招くこともある。日本人母語話者にとっても難しい学習項目であるからこそ、外国人学習者がイントネーションの実態を把握するの

はかなり困難なことだと思う。しかしながら、音声教育が重視されていなく、イントネーションなどの音声学の知識を持つ教師もごく少ないのが中国における日本語教育の現状である。そのため、音響音声学的手段による実践的な音声研究に基づいて、学習者に特化した効率的な音調指導法、学習法を求め、中国の日本語教育をより一層の飛躍をもたらさなくてはならない。

本研究は日本語の会話によく使われる疑問文のイントネーションを取り上げて、考察の対象とする。音響音声学的な分析に基づいて、中国人学習者と母語話者の疑問文イントネーションの特徴およびその相違点を考察し、さらにその要因も究明したい。

第1章の序論では、本研究の背景、目的、意義および論文の構成と概要について述べる。

1.1 本研究の背景

本研究の研究背景は、1) 中国における日本語教育の現状、2) 日本語音声教育をめぐる諸相、3) 中国人学習者による日本語音声問題点について述べる。

1.1.1 中国における日本語教育の現状

ここ数年、中日の交流が頻繁になり、日本企業が中国に進出するにつれて、中国における日本語学習者がますます増えている。中国の大学には日本語学科が多く新設され、日本語を専攻する学習者および第二外国語として勉強する学生の人数が急増した。日本語学習者が急速に増加するとともに、日本語教師、日本語教育機関数も増えた。

国際交流基金は1972年成立されて以来、数年おきに「日本語教育機関調査」を実施している。調査後、「海外の日本語教育機関調査」結果（速報）という報告書にまとめて、発行する。2012年

度日本語教育機関調査では、2009年調査時と比較して、日本語教育機関数、教師数、学習者数のすべてにおいて、大きく増加したことが分かる。（機関数1,800、1909年比5.4%増。教師数16,752人、1909年比7.3%増）、学習者数は1,046,490人（09年から219,319人、26.5%増）と100万人の大台を超え全世界で第1位となった。その詳細は表1-1のとおりである。

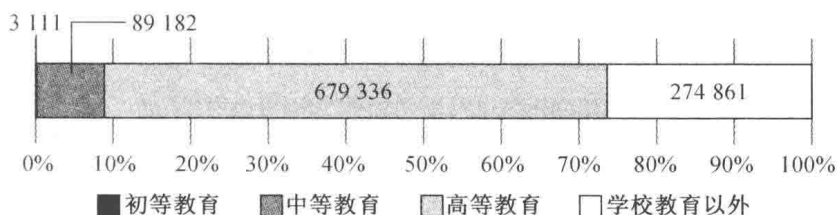
表1-1 2012年中国の日本語教育機関数・教師数・学習者数

機関数	教師数	学習者数				
		初等教育	中等教育	高等教育	学校教育以外	合計
1,800	16,752	3,111	89,182	679,336	274,861	1,046,490
		0.3%	8.5%	64.9%	26.3%	100%

国際交流基金（2012）より^①

表1.1から見て、中国の日本語学習者数は約105万人で、高等教育の学習者数が一番多く、全体の64.9%をしめ、初等教育の学習者数がわかずであることが分かった。これは中国における日本語教育の特徴の一つと言えよう。

表1-2 中国の初・中等と高等教育機関の学習者数



国際交流基金（2012）より

① 国際交流基金 <http://www.jpf.go.jp>